

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-152	15-018 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Prevalence and correlates of problem gambling in people with psychotic disorders. 精神疾患患者における病的ギャンブル行動の合併率とその要因		
執筆者		
Haydock M, Cowlishaw S, Harvey C, Castle D.		
掲載誌		
Compr Psychiatry. 2015 Apr;58:122-9. doi: 10.1016/j.comppsy.2015.01.003.		
キーワード		PMID
精神疾患、ギャンブル、飲酒、薬物使用		25684263
要 旨		
<p>目的： 精神疾患患者における病的ギャンブル行動の合併率とその要因を明らかにする。</p> <p>方法： 2010年、18歳から64歳の精神疾患患者を対象にして The second Australian national survey of psychosis を実施した。病的ギャンブル行動は the Canadian Problem Gambling Index (CPGI) を用いて二か所のセンターで評価した。442人を分析対象とした。</p> <p>結果： 151人が病的ギャンブル行動を認めた。病的ギャンブル行動が軽度の者は4.1%、中等度の者は6.4%、病的ギャンブル行動が高度の者は5.8%であった。中等度の者もしくは病的ギャンブルが高度の者は、男性が多く、中途退学者、生活保護受給者を多く認めた。薬物使用、アルコール依存、大麻使用との関連を認めた。</p> <p>結論： 精神疾患患者は病的ギャンブル行動を合併する率は、健常者の4倍であった。また、アルコールを含む薬物使用を認め、生活保護受給者も多い。病的ギャンブル行動とアルコールを含む薬物使用はあいまって、精神疾患患者の経済状態に悪影響を及ぼしている。</p>		